

わかりやすい記述についてのメモ

森厚

東京学芸大学

1. はじめに

レポートは、人に情報を伝えるための手段である。そこで、文章がわかりにくければ、レポートとしての価値は低い。

わかりやすくかくにはどうしたらいいだろうか。

2. 例

- ※以下の例は、「読み書きの技法」(小河原 誠著, ちくま新書, 1996) で挙げられたものです。
- ビアードは「計画化がわれわれ(アメリカ)の唯一の解決である」と考えるが、ロシアのシステムは地方自治、人格的自由の国アメリカには移植できないとして、これらの原則と企業のダイナミクス、効率性などを維持しつつ、計画化に進むべきだと主張する。(「歴史としての社会主義」和田春樹著, 岩波新書, 1992,p.104, 文意がわかるように、「(アメリカ)」を挿入。)

2. 例

比較してみよう。

- ビアードは「計画化がわれわれの唯一の解決である」と考えるが、ロシアのシステムは地方自治、人格的自由の国アメリカには移植できないとして、これらの原則と企業のダイナミクス、効率性などを維持しつつ、計画化に進むべきだと主張する。
- ビアードは「計画化がわれわれの唯一の解決である」と考える。また、ビアードは、地方自治が進み、人格的自由の国であるアメリカには、ロシアのシステムを移植できないとも考える。そこで、アメリカの原則である地方自治・人格的自由・企業のダイナミクス・効率性などを維持しながら、計画化に進むべきだと主張する。

2. 例

比較してみよう。

- ビアードは「計画化がわれわれの唯一の解決である」と考えるが、ロシアのシステムは地方自治、人格的自由の国アメリカには移植できないとして、これらの原則と企業のダイナミクス、効率性などを維持しつつ、計画化に進むべきだと主張する。
- ビアードは「計画化がわれわれの唯一の解決である」と考える。また、ビアードは、地方自治が進み、人格的自由の国であるアメリカには、ロシアのシステムを移植できないとも考える。そこで、アメリカの原則である地方自治・人格的自由と企業のダイナミクス・効率性などを維持しながら、計画化に進むべきだと主張する。

3. ポイント

- 文章を短くする。
- 修飾語と被修飾語の間をあけない。
- 何を指しているのかははっきりさせる。
- 論理構造を示す言葉を多用する。
- 文章の意味から論理を推測させるようにしない。
- 意味がはっきりしない言葉を避ける。
正確な言葉を使う。(鉛直・水平 ⇔ 垂直・平行)

4. 地学実験での例

- (文章で書いていない)

4. 地学実験での例

- (文章で書いていない)
- 車輪は車軸を持っている人間から見て、右から左に回転した。

4. 地学実験での例

- (文章で書いていない)
- 車輪は車軸を持っている人間から見て、右から左に回転した。
表現が不正確。

4. 地学実験での例

- (文章で書いていない)
- 車輪は車軸を持っている人間から見て、右から左に回転した。
表現が不正確。
- 回転台に乗った人がその頭上から見て右回りをすると、車輪は回転台に乗った人の側が上にあがるように回る。

4. 地学実験での例

- (文章で書いていない)
- 車輪は車軸を持っている人間から見て、右から左に回転した。
表現が不正確。
- 回転台に乗った人がその頭上から見て右回りをすると、車輪は回転台に乗った人の側が上にあがるように回る。
表現がまわりくどい。

4. 地学実験での例

- (文章で書いていない)
- 車輪は車軸を持っている人間から見て、右から左に回転した。
表現が不正確。
- 回転台に乗った人がその頭上から見て右回りをすると、車輪は回転台に乗った人の側が上にあがるように回る。
表現がまわりくどい。
- 一時的に流れがあると見て感じてても、なんでもない今現在も大気は動いている。

4. 地学実験での例

- (文章で書いていない)
- 車輪は車軸を持っている人間から見て、右から左に回転した。
表現が不正確。
- 回転台に乗った人がその頭上から見て右回りをすると、車輪は回転台に乗った人の側が上にあがるように回る。
表現がまわりくどい。
- 一時的に流れがあると見て感じてても、なんでもない今現在も大気は動いている。
前後関係にもよるが不要。

4. 地学実験での例

- (文章で書いていない)
- 車輪は車軸を持っている人間から見て、右から左に回転した。
表現が不正確。
- 回転台に乗った人がその頭上から見て右回りをすると、車輪は回転台に乗った人の側が上にあがるように回る。
表現がまわりくどい。
- 一時的に流れがあると見て感じてても、なんでもない今現在も大気は動いている。
前後関係にもよるが不要。
- 渦度を作り出す条件はコリオリの力の働きかけしかないともいえるのである。つまり台風の渦度の強化は極方向に移動させることで行うことができる。

4. 地学実験での例

- (文章で書いていない)
- 車輪は車軸を持っている人間から見て、右から左に回転した。
表現が不正確。
- 回転台に乗った人がその頭上から見て右回りをすると、車輪は回転台に乗った人の側が上にあがるように回る。
表現がまわりくどい。
- 一時的に流れがあると見て感じてても、なんでもない今現在も大気は動いている。
前後関係にもよるが不要。
- 渦度を作り出す条件はコリオリの力の働きかけしかないともいえるのである。つまり台風の渦度の強化は極方向に移動させることで行うことができる。
論理になっていない。「つまり」の誤った使い方

5. コメント

- 個性的な文章

5. コメント

- 個性的な文章 × → 小説などで

5. コメント

- 個性的な文章 × → 小説などで
- わかればよい

5. コメント

- 個性的な文章 × → 小説などで
- わかればよい × → 自分用のメモで

5. コメント

- 個性的な文章 × → 小説などで
- わかればよい × → 自分用のメモで
- 正確ならばいい

5. コメント

- 個性的な文章 × → 小説などで
- わかればよい × → 自分用のメモで
- 正確ならばいい △

よりわかりやすく、よりつたわりやすく、より包括的に

6. 練習問題

回転台に乗って、上から見て左回りに回っている状態で、車輪を左手が上で水平になっている状態から鉛直にすると、回っている人が、車輪の自分に近い側を見ると、下から上にあがっているように回転している。

6. 練習問題-変更例-

回転台に乗って、上から見て左回りに回る。
左手が上になるようにして車軸を鉛直にする。車輪が回転しないように車輪をおさえる。
おさえていた手をはなして、車軸を水平にする。
すると、車輪の左手側から見て車輪は左回りに回る。